

市街地復興効果促進事業の概要を示す書類

| | | | |
|---|----------------|--------|----------------------------------|
| 事業番号 | ★ D 23 - 2 - 2 | 細要素事業名 | 市街地整備における復興まちづくり協議会運営事業（平成26年度分） |
| <p>【事業概要、基幹事業との関連性】</p> <p>防災集団移転促進事業により移転先となる新山下駅周辺地区、宮城病院周辺地区、新坂元駅周辺地区の3つの新市街地を整備するに当たり必要となる、住民合意形成のための「復興まちづくり協議会」を平成25年1月に設立しており、土地利用や街並み、コミュニティ形成など、行政と町民が協働で新市街地の在り方を検討・実現する。</p> <p>H25年度は、魅力ある市街地形成を目指して「新市街地における公園・道路等のイメージ」や「復興まちなみのルール」について、町への「提言書」としてまとめた。</p> <p>H26年度においては、新市街地において入居・分譲募集を行い、移転者を概ね確定させる予定であるため、「集会所・公園等の利用ルール」や「道路・植栽の管理」等についてまとめ、協議会を通じて市街地形成に向けた合意形成を図る。また協議会と移転者との意見交換や研修などを行い、新たなコミュニティ形成や持続的な自治組織への基盤づくりを進める。</p> <p>【事業の内容】</p> <p>復興まちづくり協議会運営支援業務委託 (新山下駅周辺地区、新坂元駅周辺地区、宮城病院周辺地区)計3か所</p> <ol style="list-style-type: none"> ①定例会議の運営支援（総会:2回、協議会:6回、幹事会:12回） ②まちづくり広報活動（広報誌の作成やWebサイトの運営） ③セミナー・研修の開催（セミナー:3回、研修:2回） ④コミュニティ形成支援（新市街地への入居活動支援） ⑤記録誌の作成（協議会活動記録の作成） ⑥まちづくり協議会窓口業務(町民からの照会や調整業務等) ⑦報告書・打合せ協議 | | | |

市街地復興効果促進事業の概要を示す書類

| 事業番号 | ★ D 23 - 2 - 4 | 細要素事業名 | 宮城病院地区排水施設改修事業 |
|--|----------------|--------|----------------|
| <p>【事業概要、基幹事業との関連性】</p> <p>山元町の新市街地の一つである宮城病院周辺地区(防災集団移転促進事業及び災害公営住宅整備事業)から既存の赤坂堀承水路へつなぐための排水施設整備を行うもの。</p> <p>防災集団移転促進事業及び災害公営住宅整備事業が行われることにより流出量が0.132m³/s増加するが、これに既存の流出量を加えたものと、現況水路の流下量を区間ごとに比較し、流下量が不足する流域②の一部と③～⑤の区間の水路を必要最低限の範囲で改修するもの。</p> <p>新規に敷設した場合と比較すると経済的に安価であることから、既存排水施設を計画流出量に対応した改修を行う。</p> <p>【事業内容】</p> <p>流域②(計画流出89量0.652m³/s) U型水路 B800mm×H800mm 流下能力1.094m³/s L=115m (既存B500mm×H500mm 流下能力0.313m³/s)</p> <p>流域③(計画流出量3.143m³/s) U型水路 B1200mm×H1200mm 流下能力3.224m³/s L=150m (既存B1000mm×H900mm 流下能力1.736m³/s)</p> <p>流域④(計画流出量3.453m³/s) BOXカルバートB1800mm×H1200mm 流下能力3.565m³/s L= 36m (既存B1000mm×H1200mm 流下能力2.872m³/s) U型水路 B1800mm×H1200mm 流下能力3.565m³/s L=117m (既存B1200mm×H900mm 流下能力2.232m³/s) BOXカルバートB1800mm×H1200mm 流下能力3.565m³/s L= 9m (既存B1200mm×H900mm 流下能力2.232m³/s)</p> <p>流域⑤(計画流出量3.484m³/s) U型水路 B1800mm×H1200mm 流下能力3.565m³/s L= 83m (既存B1200mm×H900mm 流下能力2.232m³/s) 計510m</p> <p>※流域①は新市街地の下流では無いこと、②の一部70mは市街地整備後においても流下能力が充足していることから改修不要</p> <p>【事業スケジュール】 平成26年4月～9月 実施設計、用地 平成26年10月～平成27年2月 工事 (防災集団移転促進事業が完了する27年度当初までに完了させるもの。)</p> | | | |

市街地復興効果促進事業の概要を示す書類

| | | | |
|---|----------------|--------|------------------|
| 事業番号 | ★ D 23 - 2 - 3 | 細要素事業名 | 復興まちづくりコーディネート事業 |
| <p>【事業概要、基幹事業との関連性】</p> <p>大規模な災害により被災した山元町を山元町復興計画に基づく、災害に強いまちへ再生するための、町が抱える多くの課題に対応する復興まちづくりに係る総合的なコーディネート事業を業務委託により実施するもの。</p> <p>○特に沿岸地域においては、危険区域の設定及び防潮堤や県道嵩上げによる二線堤の整備により、震災後の地形や土地利用は大幅に変更することから、町の復興計画で掲げている防災公園や避難路、又は新市街地整備を円滑に推進するため、復興事業に係るまちづくり計画検討及び復興事業間のコーディネートを実施する。</p> <p>○復興交付金事業の推進にあたっては、復興まちづくりに関する各種事業の計画内容や進捗状況に関して、事業進捗に合わせた検討を随時行い検討結果の整理や調整を行うための調整会議を実施する。</p> <p>○津波シミュレーションでは、今次津波の既往最大津波高(約14m)を基に津波の方向、高さを把握し、想定される浸水エリア及び被災状況を予測し、危険区域に計画する施設の津波到達時間、避難準備時間、避難時間及び避難想定の人数推定などを検討する。これまで災害危険区域の設定や二線堤(県道相馬亘理線)の整備効果、各復興事業の事業費算出のために実施し、平成26年度においては、新市街地(山下地区、坂元地区)や沿岸域の公共施設(防災公園等)の整備効果等、確認を行うため実施する。</p> <p>○「山元町震災復興基本方針」を基に復興のポイントとなる「居住地」や「産業用地」の創出、または「生活」や「環境」、「保健・福祉」、「産業」といった各部門における復興の方向性を整理するとともに、各種資料・情報等の集約整理を行い、復興整備計画・復興推進計画等のまちの施策の方針決定に活用する。</p> <p>H25年度は「復興まちづくり検討」として、①津波浸水区域における避難道路を含めた道路ネットワーク検討 や、②被災者の再建意向確認による、新市街地の造成戸数確定作業 などを進めた。</p> <p>H26年度においては、上記説明のほか、沿岸地域の土地利用計画が具体化するため、用地整備計画高の検討やその計画高などを反映した津波シミュレーションの実施により、津波浸水区域における影響を確認するなど、復興まちづくり計画の細部における検討・検証を含めた、総合的な復興コーディネートを行うものである。</p> | | | |

市街地復興効果促進事業の概要を示す書類

| 事業番号 | ★ D 23 - 2 - 5 | 細要素事業名 | 常磐線復旧事業に伴う関連道路整備事業 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|----------------|---------|--------------------|--------|------|------|-------|-------|---|-------|-------|----|---|---|--------|-------|----|---|---|--------|-------|----|---|---|-------|-------|----|------|---|-------|-------|-----|-----|--|--|---|-----|--------|--|--|---------|--|--|
| <p>【事業概要、基幹事業との関連性】</p> <p>津波により被災した常磐線は、新市街地と一体的に整備するとともに、津波被害の影響が少ない災害危険区域を極力回避するため内陸部へ移設される。</p> <p>また、町では震災復興計画に基づき新たな土地利用計画を策定し、災害危険区域の1種、2種の宅地を対象に、防災集団移転促進事業で被災宅地の買い取りを進めており、買取対象となる沿岸部に居住していた稲作農家やいちご栽培農家は新市街地への移転、町内の内陸部移転、再建築可能な津波浸水区域での自宅再建が進められている。</p> <p>一方、沿岸部では、買い取った被災宅地について産業用地などの土地利用を予定しており、町の基幹産業である稲作、いちご栽培も着実に再建が進んでいる。</p> <p>当該事業は、新市街地のある内陸部と沿岸部が常磐線により遮断されるため、新市街地のある内陸部から、沿岸部の被災宅地を活用した産業用地等や稲作、いちご団地までのアクセスを確保するため、最低限必要な5箇所に設置される踏切への現道擦付け工事を実施するもの。</p> <p>○事業概要及び対象路線</p> <p>①測量設計 測量(平面・縦断・横断測量) 道路詳細設計</p> <p>②本工事</p> <table border="1" data-bbox="225 1167 879 1469"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>対象路線</th> <th>事業概要</th> <th>延長(m)</th> <th>幅員(m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>上平浜原線</td> <td>現道擦付け</td> <td>80</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>合戦原笠野線</td> <td>現道擦付け</td> <td>90</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>合戦原赤坂線</td> <td>現道擦付け</td> <td>80</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>鷲足花釜線</td> <td>現道擦付け</td> <td>90</td> <td>11.5</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>大平牛橋線</td> <td>現道擦付け</td> <td>110</td> <td>6.5</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>計</td> <td>450</td> <td>4~11.5</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>合計(①+②)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 番号 | 対象路線 | 事業概要 | 延長(m) | 幅員(m) | 1 | 上平浜原線 | 現道擦付け | 80 | 4 | 2 | 合戦原笠野線 | 現道擦付け | 90 | 5 | 3 | 合戦原赤坂線 | 現道擦付け | 80 | 5 | 4 | 鷲足花釜線 | 現道擦付け | 90 | 11.5 | 5 | 大平牛橋線 | 現道擦付け | 110 | 6.5 | | | 計 | 450 | 4~11.5 | | | 合計(①+②) | | |
| 番号 | 対象路線 | 事業概要 | 延長(m) | 幅員(m) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 上平浜原線 | 現道擦付け | 80 | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 合戦原笠野線 | 現道擦付け | 90 | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 合戦原赤坂線 | 現道擦付け | 80 | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 鷲足花釜線 | 現道擦付け | 90 | 11.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 大平牛橋線 | 現道擦付け | 110 | 6.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 計 | 450 | 4~11.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 合計(①+②) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |